

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): FUKUNARI, et al.  
Serial No.: Not yet assigned  
Filed: January 8, 2004  
Title: METHOD AND SYSTEM FOR JUDGING RELIABILITY OF  
RESOURCES, AND PROGRAM FOR THE SAME  
Group: Not yet assigned

LETTER CLAIMING RIGHT OF PRIORITY

Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

January 8, 2004

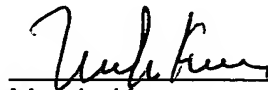
Sir:

Under the provisions of 35 USC 119 and 37 CFR 1.55, the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on Japanese Patent Application No.(s) 2003-074810, filed March 19, 2003.

A certified copy of said Japanese Application is attached.

Respectfully submitted,

ANTONELLI, TERRY, STOUT & KRAUS, LLP



---

Melvin Kraus  
Registration No. 22,466

MK/alb  
Attachment  
(703) 312-6600



日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

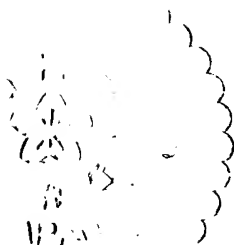
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 3 年    3 月 1 9 日  
Date of Application:

出 願 番 号                      特 願 2 0 0 3 - 0 7 4 8 1 0  
Application Number:  
[ST. 10/C] :                      [ J P 2 0 0 3 - 0 7 4 8 1 0 ]

出      願      人                      株式会社日立製作所  
Applicant(s):



2 0 0 3 年 1 2 月 1 6 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号    出証特 2 0 0 3 - 3 1 0 4 2 4 3



【書類名】 特許願

【整理番号】 K02018431A

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 5 0 3 0 番地 株式会社日立製作所 ソフトウェア事業部内

    【氏名】 福成 千穂

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 5 0 3 0 番地 株式会社日立製作所 ソフトウェア事業部内

    【氏名】 平林 元明

【特許出願人】

    【識別番号】 000005108

    【氏名又は名称】 株式会社日立製作所

【代理人】

    【識別番号】 100075096

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 作田 康夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 013088

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要



【書類名】 明細書

【発明の名称】 リソース信頼性判定システム及び方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

計算機を用いたリソース判定方法であって、  
前記計算機は、予め記憶装置に格納されたリソースの利用実績に関するデータを読み出し、  
ユーザからリソース種別と条件を受け付け、  
前記リソースの利用実績に関するデータと前記リソース種別と前記条件に基づいて前記リソースを判定することを特徴とするリソース判定方法。

【請求項 2】

Web サービスを構築する上で必要となるリソースの利用実績があるユーザの利用実績データと前記リソースを所有する企業の当該リソースに関するデータを取得するデータ取得部と、調査依頼をしたユーザの調査項目や条件に基づいて前記リソースの信頼度を判定する信頼度判定部と、リソース信頼度の調査依頼を受け付ける受付部を備えたことを特徴とするリソース信頼度判定システム。

【請求項 3】

請求項 2 記載のリソース信頼度判定システムであって、前記リソースは、Web サービスを構築する上で必要となる、ストレージ、アプリケーション、コンピュータなどであることを特徴とするリソース信頼度判定システム。

【請求項 4】

予め管理された調査対象となるリソースの信頼度データを取得し、前記取得した信頼度データに基づいてリソースの信頼度を判定することを特徴とするリソース信頼度判定方法。

【請求項 5】

請求項 4 において、前記リソースの調査依頼したユーザへ、当該リソースの信頼性判定結果に基づいたリソースを提供するリソース信頼度判定方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

**【発明の属する技術分野】**

本発明は、Webサービスの利用を検討するユーザが、Webサービスで使用するリソースの信頼性を入手するにあたり、前記リソースに関する知識がないことや、莫大なリソースの情報からユーザが求めているリソースを選出するのに困難であったり、莫大な時間がかかってしまうという現状での問題を解決すべく、当該リソースの信頼性を判定し、必要に応じて判定した結果に基づいたリソースの割り当てるリソース信頼性判定システム及び方法である。

**【0002】****【従来の技術】**

従来技術として、技術的に専門性を必要とする委託開発業務を依頼するために、委託先が持つ技術力、経験分野、委託先が委託可能な状況であるかを判定するための委託可能期間などの委託者が保有する無形資産に該当する情報を集中的にかつ効率的に検索・比較・検討を可能にするものが知られている（たとえば、特許文献1参照。）。しかし、リソースに関する信頼性判定については開示されていない。

**【0003】****【特許文献1】**

特開2002-197263号公報

**【0004】****【発明が解決しようとする課題】**

従来、企業の情報システムは、社内での利用を前提としていたため、自社でリソースを調達し、メンテナンスを行っていただければよかった。

**【0005】**

しかし、近年、複数の異なる企業の情報システムをネットワークで統合し、人手を介さずに各企業間の情報をやりとりすることで企業提携及び情報伝達効率向上を図り、ユーザのサービスを拡大することができるWebサービスが進出してくると、これらのリソースを持たない企業もWebサービスを利用するようになり、Webサービスで使用するリソースの開発元企業の情報に加え、当該リソースの性能や信頼性を入手する必要がでてきた。

**【0006】**

Webサービスの利用を検討するユーザは、Webサービスを構築する上で必要なリソースの性能や信頼性をホームページなどに公開されている情報から入手し、その信頼性を判断することになるが、リソースに関する予備知識が少ない、あるいは、予備知識はあっても、その膨大なリソースの種類と性能の数値だけでは、総合的なリソースの信頼性を判断できないという問題がある。

**【0007】**

また、リソースの利用実績のあるユーザから当該リソースの信頼性を判定する情報を収集して、判定した信頼性結果を提供する調査機関はまだごくわずかであるため、それらの調査機関の信頼性も判定結果の信頼性も高くないという問題がある。

**【0008】****【課題を解決するための手段】**

前記課題を解決するため、本発明によるリソース信頼性判定システム及び方法は、Webサービスを利用する上で必要なリソースの信頼性を判定するにあたり、利用実績のあるリソースの性能や故障率などの情報や企業の対応などを合わせた統合評価結果などを格納する利用実績格納部と、前記リソース保有企業が公開しているリソースの性能や企業情報を確保しておくWebサーバと、利用実績格納部とWebサーバからリソース信頼度を判定するにあたり必要となる情報を取得するデータ取得部と、データ取得部と受付部で受けた判定するリソースの条件を用いてその信性を判定する信頼度判定部と、リソースの信頼性判定結果を受付部からユーザ端末へ通知し、当該リソースの受注を決定した場合、受付部からWebサーバへ問合せ、ユーザに割り当てる。

**【0009】****【発明の実施の形態】**

本発明の実施例を、以下図面に従い説明する。

まず、本発明で用いる用語の定義を行う。

**【0010】**

Webサービスとは、複数の異なる企業をネットワークを介して統合し、ユー



ザは複数の企業に跨って調査もしくは依頼をしなくても統合された企業へ依頼するだけで、ユーザのニーズに合ったものが提示できるサービスである。

### 【0011】

例えば、旅行の予約において、航空券を買うときはユーザが航空会社へ予約し、ホテルを予約するときはホテルへ予約し、その他旅のパーツをそれぞれ専門業者へユーザが直接予約し、予約が取れたと連絡がきたら、それらを購入するという企業システムが従来の形態であるが、これに対し、旅行代理店が航空券・ホテルなどの複数企業システムを統合し、申し込みから発券までの手続きを人手を介さずネットワークを介し、コンピュータ同士が直接情報伝達することである。

### 【0012】

リソースとは、Webサービスを利用する上で必要となる資源のことで、例えば、パソコンやワークステーションなどのコンピュータや、それらコンピュータをネットワークに接続するルータやハブなどのネットワーク機器や、ドキュメント作成や数値計算など実現するアプリケーション、様々なデータを保存するハードディスクなどのストレージを示す。

### 【0013】

図1は、Webシステムの利用経験のない、もしくは、リソース信頼性調査システムを始めて利用するユーザがコンピュータで必要なリソース情報の提供を受けることができるユーザ端末11と、Webシステムの利用経験があるユーザがその利用実績や評価結果を格納する利用実績格納部14と企業間の情報伝達が人手を介さずにコンピュータ同士で直接実現できるWebサービス15を有するユーザ情報格納センタ10と、前記リソースを保有する企業がWebサービス利用に必要なリソースの性能や使用情報を格納しておくWebサーバ20とリソース19を有するIDC13と、ユーザ端末11もしくはユーザ情報格納センタ10からのリソース信頼性判定依頼を受け付け、Webサーバ20に当該リソースの提供可否を確認する受付部18と、利用実績格納部14とWebサーバ20からユーザ端末11で設定されたリソース条件に見合った情報を取得するデータ取得部16と、ユーザの条件から取得した情報を用いてリソースの信頼性を判定する信頼度判定部17を有する信頼度調査部12がネットワーク1で接続されている、リソース信頼性判定システムの全体

構成を概略的に示す図である。

#### 【0014】

尚、ユーザ端末11とユーザ情報格納センタ10とIDC13は、1つもしくは複数存在するものとする。

#### 【0015】

図2は、IDC13で保有するWebサーバ20内に格納するデータの例であり、IDC13で保有するリソースの性能のデータを格納する性能格納部21と、前記リソースを提供する企業の従業員数や資本金やそれら情報を取得できるホームページのURLを格納する企業規模格納部22と、ユーザからのリソース提供依頼を受けて、リソースを提供する提供部23を示す図である。

#### 【0016】

図3は、ユーザ情報格納センタ10がWebサービスを導入した時に使用したリソースの実績とその評価を格納しておく利用実績格納部14の構成例であり、取引経験のあるWebサービス業者のリソースに関する故障率・障害発生時間い合わせ対応時間のデータと、それらの実績からユーザ独自で評価した性能評価値を格納する性能評価格納部31と、リソース提供を受けたり取引経験がある企業名や部署や取引年数のデータと企業に関する取引評価値を格納する取引企業格納部32と、取引のある企業の製品やプロジェクトの案件毎の利用年数や頻度、契約金額、対応態度のデータとそれらの総合評価値経験を格納する総合評価格納部33を示す図である。

#### 【0017】

図4は、性能評価格納部31のデータ構成を示す性能評価テーブル40のデータ構成例を示す図である。

#### 【0018】

例えば、コンピュータやストレージなどリソースの種類を示すリソース種別42や、特定のリソースとして判別可能な機種や型名43、導入した台数44、導入開始から現在に至るまでの故障した割合を示す故障率45、トラブル発生時にサポートセンターなどが障害発生時から解決策を提示するまでに要した時間を示す対応速度46、それら利用実績からユーザ情報格納センタ10毎に評価したリソース性能評



価結果を数値化した性能表価値47、性能評価テーブル40の項目を更新した更新日41を格納しておく。

#### 【0019】

図5は、リソース利用経験のあるユーザがリソースに限らずユーザ情報格納センタと取引経験がある企業に関する情報を格納する取引企業格納部32のデータ構成を示す、取引企業テーブル50のデータ構成例を示す図である。

#### 【0020】

例えば、企業名や部署名53に対応する企業コード51と部署コード52、ユーザの問い合わせに対応するe-Mailアドレス54や取引年数55、取引の長さやそれまでの対応態度などをユーザ情報格納センタ10毎に評価した取引評価値56を格納しておく。

#### 【0021】

図6は、リソース毎に見た性能評価と企業評価に加え、利用頻度や契約回数などの企業の慣例などを含めて総合的に判断した、総合評価格納部33のデータ構成を示す総合評価テーブル60のデータ構成例を示す図である。

#### 【0022】

例えば、性能評価テーブル40に格納してある実績番号61に対応したリソース保有企業コード62と、そのリソースの利用年数63や契約回数64や利用頻度65や受発注金額66と、それらの情報をユーザ情報格納センタ10毎に評価した総合評価値67などを格納しておく。

#### 【0023】

図7は、其々のIDC13で保有するリソースの性能を格納する性能格納部21のデータ構成を示す性能テーブル70のデータ構成例を示す図である。

#### 【0024】

例えば、当該リソースを製造している企業の企業コード71とリソースの機種72と型名73毎に、価格74、性能75、拡張性76など、リソースを選別する際に必要になる性能情報を格納しておく。

#### 【0025】

図8は、当該リソースを保有する企業の情報を格納する企業規模格納部22のデ

ータ構成を示す企業テーブル80のデータ構成例を示す図である。

#### 【 0 0 2 6 】

例えば、企業コード81と企業名82毎に対応する従業員数83や資本金84、創業年数85などとそれらの情報を得られるホームページのURL86を格納しておく。

#### 【 0 0 2 7 】

図 9 は、ユーザ端末11から発信されたリソースの信頼性判別依頼を受け付ける受付部18のデータ構成を示す受け付けテーブル90のデータ構成例を示す図である。

#### 【 0 0 2 8 】

例えば、受け付け案件毎に発番する問合番号91と、ユーザ登録されている場合のみユーザ登録番号92を格納し、受付日93、リソース種別94と、信頼性を調査する際に焦点を絞る条件195、条件296、条件397を格納し、前記リソース種別94と条件に合ったリソースの信頼度判定結果99と、その判定結果により、ユーザが当該リソースの申し込みをしたか否かの採否98を格納しておく。

#### 【 0 0 2 9 】

図 1 0 は、ユーザ端末11からのリソース信頼度調査依頼を受付部18にて受け付けてから、信頼度判定に必要な情報を取得し、データを並べ替えるまでの処理の流れを示す図である。

#### 【 0 0 3 0 】

ステップ101では、ユーザ端末11から発信されたリソース種別、条件、ユーザ番号と、それに対応する問合せ番号を付与し、受付日時と共に受付テーブル90に格納する。

#### 【 0 0 3 1 】

ステップ102では、性能評価格納部31と性能格納部21からステップ101で格納したリソース種別に関係するデータを収集し、データ取得部16に格納する。

#### 【 0 0 3 2 】

ステップ103では、ステップ101にてリソース種別以外にリソースの条件を指定されたかどうか判別し、条件が指定されていなければ、そのまま並べ替えず終了する。

**【 0 0 3 3 】**

ステップ104では、条件が指定されていた場合、最も優先順位の低い条件から順に、ステップ102で取得したデータを並べ替えたり、抽出したりする。

**【 0 0 3 4 】**

ステップ105では、全ての条件に基づいて並べ替えが終わったか判別し、全条件終了していなければ次に優先順位の高い条件についてステップ104を実行し、全条件終了するまでステップ104を繰り返す。

**【 0 0 3 5 】**

図 1 1 は、図 1 0 にて並べ替えたデータを用いて、信頼度を判別する処理の流れを示す図である。

**【 0 0 3 6 】**

ステップ111では、ステップ105の並べ替えた取得一覧テーブル130の先頭データを読み込み、評価値合計を 0 点に設定しておく。

ステップ112では、今まで読み込んだデータに同一型名が存在するか判別している。

**【 0 0 3 7 】**

ステップ113では、ステップ112で同一型名が存在した場合、ユーザ個別のリソース評価値を評価値合計に合算し、件数も 1 件分追加する。

ステップ114では、ステップ112で同一型名が存在しない場合、ユーザ個別のリソース評価値をそのまま評価値合計として格納し、件数も 1 件として格納する。

**【 0 0 3 8 】**

ステップ115では、ステップ111またはステップ117読み込んだ元のデータにステップ113もしくはステップ114で評価値合計と件数を信頼度判定結果格納テーブル140に格納する。これにより、同一型名のリソースの信頼度が合算されていく。

ステップ116では、全データを読み込み完了したか判別している。

ステップ117では、ステップ116で全データの読み込みを完了していない場合、取得一覧テーブル130における次のデータを読み込みステップ112へ戻る。

**【 0 0 3 9 】**

ステップ118では、全データの評価値が集計し終わり、件数で除算することで、評価値の平均をとる。

#### 【 0 0 4 0 】

サンプル数が多いほど、その評価値の信頼性は高まることになる。

#### 【 0 0 4 1 】

図 1 2 は、図 1 1 にて判定したリソースの信頼度判定結果に対して、ユーザがリソースの申し込みをするか否かによって変化する問合せ処理終了までの流れの例を示す図である。

#### 【 0 0 4 2 】

ステップ121では、当該リソースの利用申込をするか否かを判別している。

ステップ122では、問合せをしたユーザが登録ユーザかを判別している。

ステップ123では、登録ユーザでないユーザに対して、ユーザ登録するか否か問い合わせている。

#### 【 0 0 4 3 】

ユーザ登録しない場合、リソースの提供は受けられず、ステップ128へ飛び、採否ステータスを否とする。

ステップ124では、新規にユーザ登録希望するユーザ端末11に、性能テーブル40と、取引企業テーブル50と、総合評価テーブル60からなる利用実績格納部14を提供し、ユーザ番号を発行する。

ステップ125では、受付部18からW e bサーバ20に、ステップ121で利用申込されたリソースの提供可能な状態かどうかを判定している。

#### 【 0 0 4 4 】

ステップ126では、ステップ125にて提供可能な状態であった場合、W e bサーバ131から当該リソースを提供する手続きをユーザ端末11へ送信する。

また、採否ステータスを採とする。

ステップ127では、ステップ125にて提供可能なリソースが存在しなかった場合、ユーザ端末11に次の候補で申込するか確認し、次の候補でよい場合、判定結果テーブル140の候補141から次の候補を選択し、ステップ125へ飛ぶ。

#### 【 0 0 4 5 】

次の候補で申込しない場合、ステップ128へ飛び、採否ステータスを不可とする。

ステップ128では、採否ステータスを受付テーブル90の採否98に格納する。

#### 【 0 0 4 6 】

図 1 3 は、リソースの利用実績を持つユーザの利用実績格納部14のデータと I D C 内の W e b サーバ20にあるデータを取得するデータ取得部16のデータ構成を示す取得一覧テーブル130のデータ構成例を示した図である。

#### 【 0 0 4 7 】

例えば、実績番号131、企業コード132、機種や型名133、性能評価値134、取引評価値135、総合評価値136を格納しておく。

#### 【 0 0 4 8 】

図 1 4 は、取得一覧テーブル130の並べ替えもしくは抽出したデータに信頼度判定結果を格納する信頼度判定部17のデータ構成を示す判定結果テーブル140のデータ構成例を示した図である。

例えば、候補番号141、実績番号142、企業コード143、型名144、条件 1 の評価値145、条件 2 の評価値146、条件 3 の評価値147、信頼度148を格納しておく。

#### 【 0 0 4 9 】

図 1 5 は、ユーザ端末11に表示する情報の例を示した図である。

例えば、過去に信頼度調査をしてユーザ登録した人は、ユーザ番号151にユーザ番号を入力し、信頼度調査をするリソース種別をリソース種別152のプルダウンメニューから選択し、どのような項目を条件として設定するか条件の項目名を条件153に入力し、複数条件入力したい場合はスペースを空けて入力し、条件153に設定した項目に関して、それぞれ該当する個所に、メーカを指定するならメーカ154に企業名を入力し、機種や型名を指定するなら型名155に入力し、価格帯を入力したいなら価格156に希望価格を入力し、その他157に条件として設定したいキーワードを入力し、送信ボタン158を押下すると、ユーザ端末11から受付部18にリソース信頼度調査依頼が送信される。

#### 【 0 0 5 0 】

尚、条件153に入力した順番で条件 1、条件 2、条件 3 . . . のように、優先

順位を付与する。

【0051】

本発明によれば、Webサービスを利用する際に必要なリソースの信頼性を判定することで、ユーザのニーズに合ったリソースを判定し割り当てることが可能となる。

【0052】

また、当該リソース保有企業および開発企業も、その情報により、性能改善を図ることが可能となる。

【0053】

【発明の効果】

本発明によれば、Webサービスを利用する際に必要なリソースの信頼性を判定することで、ユーザのニーズに合ったリソースを判定し割り当てることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明によるリソースの信頼度を判定するシステム構成例を示した図である。

【図2】

IDC13で保有するWebサーバ20内に格納するデータ構成の例を示した図である。

【図3】

利用実績格納部14に格納するデータ構成の例を示した図である。

【図4】

利用実績格納部14に格納されている性能評価格納部31のデータ構成を示す性能評価テーブル40のデータ構成例を示した図である。

【図5】

リソース利用経験のあるユーザがリソースに限らず取引経験のある企業に関する情報を格納する、取引企業格納部32のデータ構成を示す取引企業テーブル50のデータ構成例を示した図である。

【図6】

リソース毎に見た性能評価と企業評価を総合的に判断した、総合評価格納部33のデータ構成を示す総合評価テーブル60のデータ構成例を示した図である。

【図 7】

I D Cで保有するリソースの性能を格納する性能格納部21のデータ構成を示す性能テーブル70のデータ構成例を示した図である。

【図 8】

当該リソースを保有する企業の情報を格納する企業規模格納部22のデータ構成を示す企業テーブル80のデータ構成例を示した図である。

【図 9】

ユーザ端末11から発信されたリソースの信頼性判別依頼を受け付ける受付部18のデータ構成を示す受付テーブル90のデータ構成例を示した図である。

【図 1 0】

ユーザ端末11からの信頼度調査依頼を受け付けてから、信頼度判定に必要な情報を取得し、データを並べ替える処理の流れの例を示す図である。

【図 1 1】

図 1 0 にて並べ替えたデータを用いて、信頼度を判別する処理の流れの例を示す図である。

【図 1 2】

図 1 1 にて提示したリソースの信頼度判定結果に対して、ユーザがリソースの申し込みをするか否かによって変化する問合せ処理の終了までの流れの例を示す図である。

【図 1 3】

リソースの利用実績を持つユーザの利用実績格納部14のデータと I D C内のW e bサーバ20にあるデータを取得するデータ取得部16のデータ構成を示す取得一覧テーブル130のデータ構成例を示した図である。

【図 1 4】

取得一覧テーブル130の並べ替えもしくは抽出したデータに信頼度判定結果を格納する信頼度判定部17のデータ構成を示す判定結果テーブル140のデータ構成例を示した図である。

**【図 1 5】**

ユーザ端末11に表示する情報の例を示した図である。

**【符号の説明】**

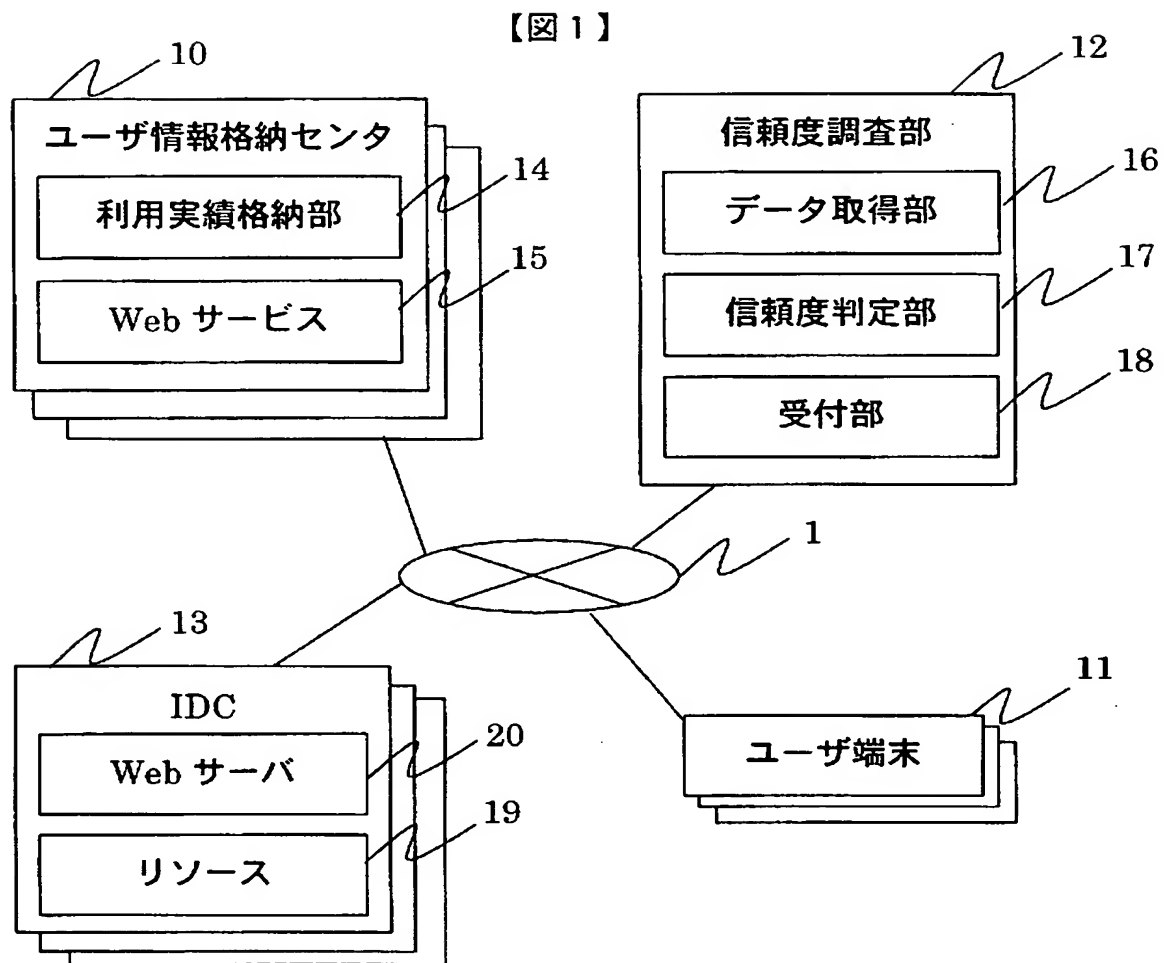
- 1：ネットワーク
- 10：ユーザ情報格納センタ
- 11：ユーザ端末
- 12：信頼度調査部
- 13：I D C (Internet Data Center)
- 14：利用実績格納部
- 15：W e b サービス
- 16：データ取得部
- 17：信頼度判定部
- 18：受付部
- 19：リソース
- 20：W e b サーバ
- 21：性能格納部
- 22：企業規模格納部
- 23：提供部
- 31：性能評価格納部
- 32：取引企業格納部
- 33：総合評価格納部
- 40：性能評価テーブル
- 50：取引企業テーブル
- 60：総合評価テーブル
- 70：性能テーブル
- 80：企業テーブル
- 90：受付テーブル
- 130：取得一覧テーブル
- 140：判定結果テーブル



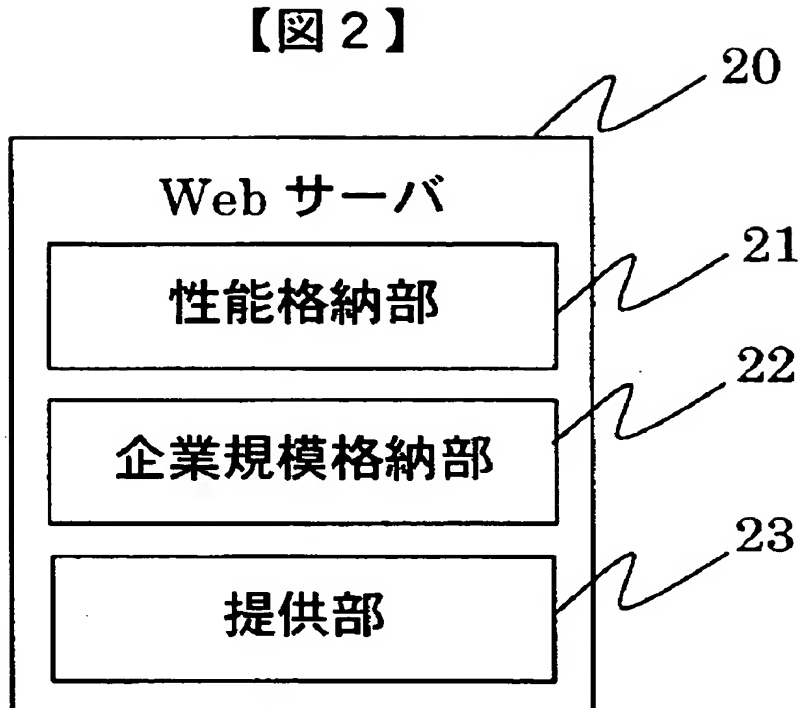
150：ユーザ端末表示情報

【書類名】 図面

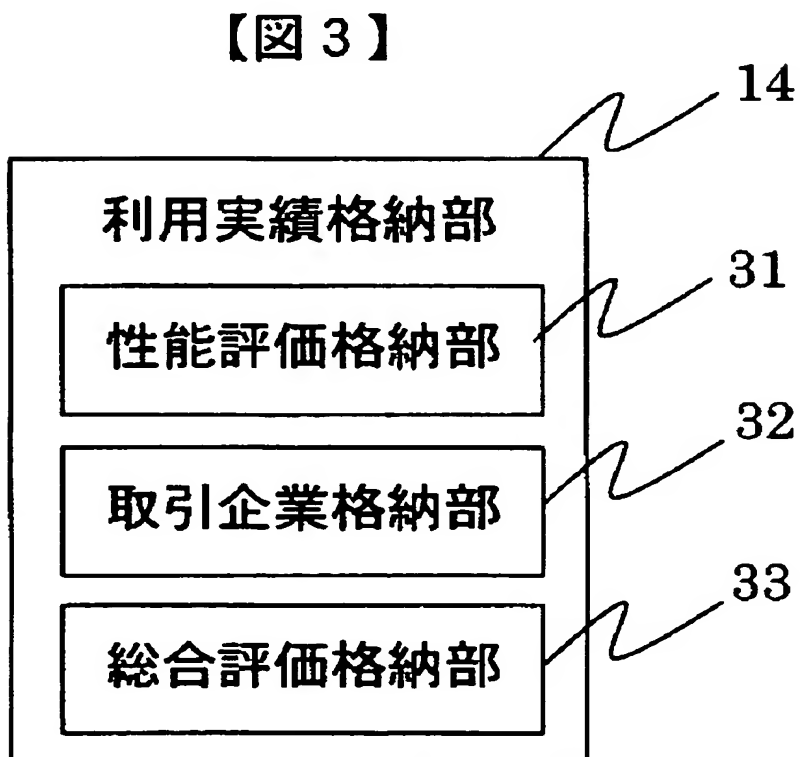
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

【図 4】

40: 性能評価テーブル

更新日	リソース種別	型名	台数	故障率	対応速度	性能 評価値	...
2001.01.05	コンピュータ	PC1535	100	0.01%	15 時間	5	...
2002.05.06	アプリケーション	AP1515	1000	0.00%	1 時間	1	...
2002.06.11	ストレージ	ST984	500	0.00%	30 時間	2	...
...	...	...	...	...	...	...	...

【図 5】

【図 5】

50: 取引企業テーブル

企業コード	部署コード	部署名	e-mail	取引年数	取引 評価値	...
103548	001	a 部	...@...jp	2 年	3	...
103549	102	b 課	...@...jp	5 年	6	...
103550	300	c 部	...@...jp	20 年	1	...
...	...	...	...	...	...	...

【図 6】

【図 6】

60: 総合評価テーブル

実績番号	企業コード	利用 年数	契約回数	頻度	金額	総合 評価値	...
2001.01.05	103548	2 年	5 回	上昇	100k¥	2	...
2002.05.06	103549	5 年	1 回	下降	600k¥	5	...
2002.06.11	103550	20 年	40 回	変化なし	1000k¥	8	...
...	...	...	...	...	...	...	...

【図 7】

【図 7】

70: 性能テーブル

企業コード	機種	型名	価格	性能	拡張性	...
103548	PC***	PC1535	900K¥	1.3GHz	あり	...
103549	AP***	AP1515	300K¥	100b/s	なし	...
103550	ST***	ST984	4500K¥	880.8GB	あり	...
...	...	...	...	...	...	...

【図 8】

【図 8】

80: 企業テーブル

企業コード	企業名	従業員数	資本金	創業年数	URL	...
103548	A 会社	10,000	300M¥	78	www.***	...
103549	B 会社	8,251	100M¥	6	www.***	...
103550	C 会社	6,848	66M¥	20	www.***	...
...	...	...	...	...	...	...

【図 9】

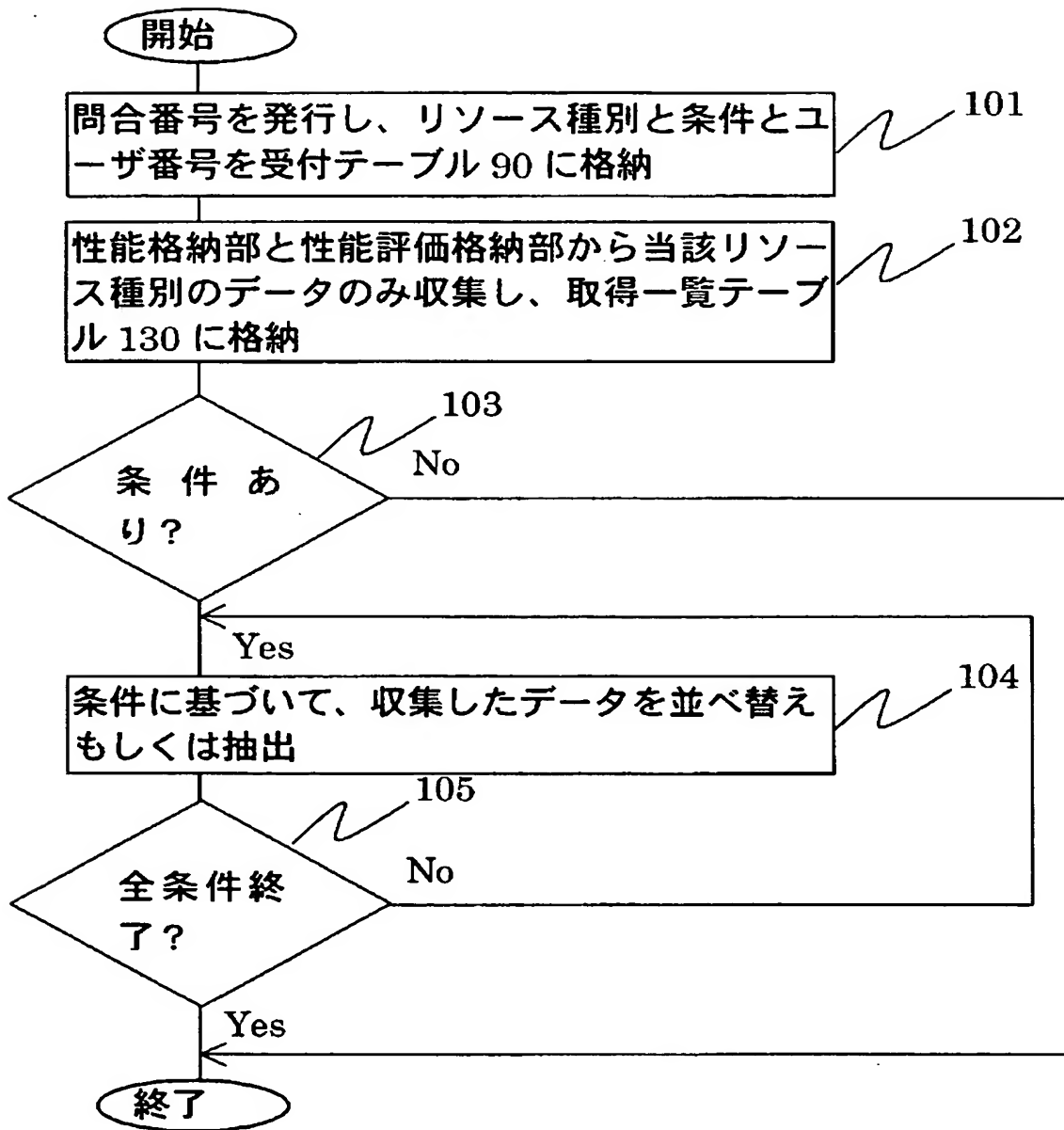
【図 9】

90: 受付テーブル

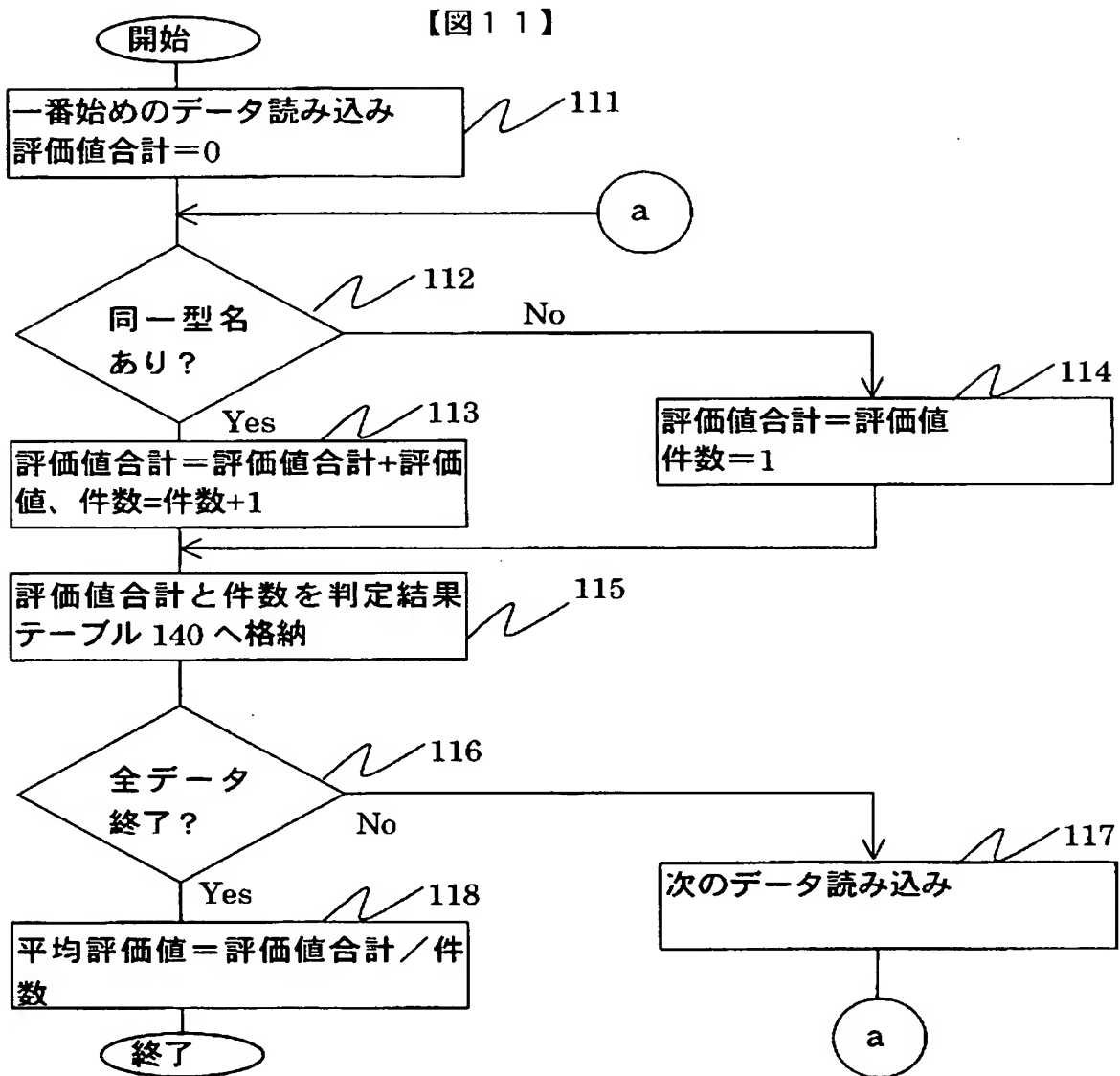
91	92	93	94	95	96	97	98	99
問合せ番号	ユーザ番号	受付日	リソース種別	条件 1	条件 2	条件 3	採否	信頼度
12345678	12345	2002/12/1	コンピュータ	型名 PC1535	価格 900K¥	企業 H 社	採	60
45678912	45678	2002/12/2	アプリケーション	型名 AP1515	—	—	否	25
32465485	35448	2002/12/3	ストレージ	型名 ST984	企業 A 社		採	75
...	...	...	...	...	...	...	...	...

【図 10】

【図 10】



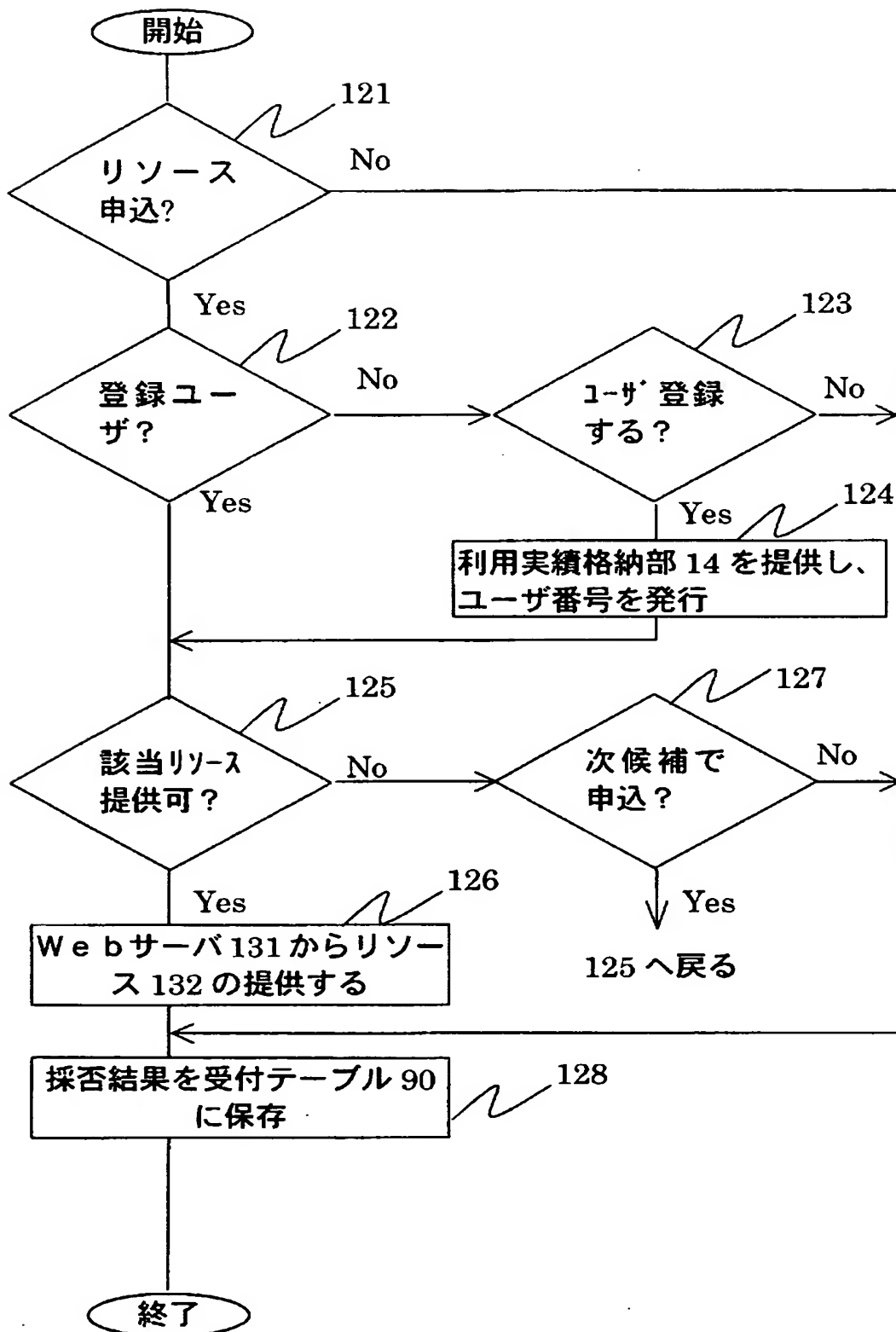
【図 11】





【図 12】

【図 12】



【図 13】

【図 13】

130: 取得一覧テーブル

131	132	133	134	135	136	
実績番号	企業コード	型名	性能評価値	取引評価値	総合評価値	...
2001.01.05	103548	PC1535	3	1	5	...
2002.05.06	103549	PC1515	5	9	6	...
2002.06.11	103550	PC 984	9	6	9	...
...	...	...	...	...	...	...

【図 14】

【図 14】

140: 判定結果テーブル

141	142	143	144	145	146	147	148	
候補	実績番号	企業コード	型名	条件 1 の 評価値	条件 2 の 評価値	条件 3 の 評価値	...	信頼度
1	2001.01.05	103548	PC1590	9	8	15	...	60
2	2002.05.06	103549	PC1555	6	6	15	...	25
3	2002.06.11	103550	PC1531	5	5	10	...	75
...	...	...	...	...	...	...	...	...

【図 15】

【図 15】

150

条件を入力して下さい。（※は入力必須です。）

ユーザ番号  151

リソース種別※ コンピュータ  152

条件

型名 価格 153

・ メーカー A 社 B 社 154

・ 型名 PC1535 155

・ 価格  156

・ その他  157

158

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

W e b サービスを利用を検討しているユーザから、リソース信頼度調査依頼を受け付けて、W e b サービス提供会社のリソース利用経験のあるユーザの利用実績データ及び前記リソースを所有する企業からの当該リソースに関するデータを取得し、前記リソースの信頼度を判定するシステム及び方法。

【解決手段】

予め利用実績格納部に格納されているリソースに関する利用実績と、W e b サーバに格納されている当該リソースに関するデータを収集してデータ取得部に格納し、信頼度判定部にて前記データ取得部へ格納したデータを用いてリソース信頼度を判定するリソース信頼性調査システム及びその方法であり、更に要望に応じて判定結果に基づいた信頼度の高いリソースを提供する。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 0 7 4 8 1 0
受付番号	5 0 3 0 0 4 4 5 5 3 0
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0 0 9 6
作成日	平成 1 5 年 3 月 2 0 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成15年 3月19日

次頁無

特願 2 0 0 3 - 0 7 4 8 1 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 5 1 0 8 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

氏 名

株式会社日立製作所